

地経学と経済安全保障の観点からの国際保健戦略
研究分担者 鈴木一人 東京大学

研究要旨

現代の国際政治における G7・G20 といった、国際秩序を主導する役割を持つ会議体は、かつてのような主導的な役割を失い、大国間対立の関係に陥った。そのため、国際秩序を規定するルールが存在が希薄となり、その結果、国際保健課題の取組に関しても、大きな障害となっている。本研究では、現代の国際秩序における、国際公共財の提供を担う、G7・G20 の状況を理解するために、地経学と経済安全保障という概念を導入して、中長期的な国際保健課題にどう取り組み、我が国がどう関与していくかを検討した。

A. 研究目的

国際秩序が不安定になる中で、G7・G20 がどのような役割を果たし、国際的なルールや規範がどう変化したかを検討する。

B. 研究方法

経済安全保障と地経学という概念を手がかりに、トランプ政権登場以降の米中対立を、時系列的に分析しながら、国際ルールの役割に関する仮説を立てる。

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

2026年は年初からアメリカのベネズエラにおける軍事介入があり、3月にはイランに対する米イスラエルの軍事攻撃が勃発し、その対抗措置としてホルムズ海峡の事実上の閉鎖が実施された。その結果、原油価格は上昇し、日本を含む多くの国が対応に追われている。ロシアのウクライナ侵攻は4年経っても収束の兆しを見せず、世界秩序が大きく動揺する現実に直面している。

そんな中で、地政学と地経学というキーワードが現代の国際秩序を説明する言葉として頻繁に使われるようになっていく。地政学とは地理と歴史の二つの視点から、国家間関係を読み解く戦略的思考であり、国家のパワーを主として軍事力と、それを支える経済力で測る考え方である。他方、地経学とは地政学の考え方を経済的側面に焦点を当てて分析するものである。その分析方法は、国家が持つパワーを「戦略的自律性」と「戦略的不可欠性」という二つの概念で測るものである。他国への経済的依存が小さく、ゆえに経済的威圧に対するレジリエンスが高い自律性を持ち、他国が持たない物資や技術を提供することで、グローバルサプライチェーンにおいて不可欠な存在になっている国家が、地経学的なパワーを持つ。

地政学、地経学とも、国家のパワーに着目し、そのパワーをいかに行使して国際秩序を形成し、他国との関係を規定しているかを分析する。例えばイランをめぐる問題では、米イスラエルがイランに対して地政学的なパワーを行使する一方、イランはホルムズ海峡を封鎖することで、世界経済に影響を与え、

それによって国際社会が米イスラエルに圧力をかけて戦争を止めさせる形で地経学的なパワーを行使している。現代世界においては、地政学的パワーと地経学的パワーが混ざり合って行使され、その結果、ルールに基づく秩序は大きく揺らぎ、パワーに基づく国際秩序が形成されようとしている。

しかしながら、注意しなければならないのは、地政学的なパワーも、相対的な差でしかないということである。ロシアは圧倒的な軍事力を持ちながら、4年かけてもウクライナを屈服させることはできていない。もちろん、ウクライナがNATO諸国に支援され、高い継戦能力を持っていることがあっても、圧倒的な軍事力だけでは政治的目的を達成することはできない。同様に、米イスラエルはイランに空爆を実施するが、空爆だけでは体制転換を実施することはできず、地上軍を派遣する能力や国内支持もないため、いたずらに空爆による殺戮が続いている。

また、地経学的パワーは特に不可欠性が重要な要素となるが、不可欠性には二つのタイプがある。一つは「モノの不可欠性」であり、中国のレアアースが代表例である。圧倒的なグローバルシェアを持ち、それを止めれば、生産工程の下流の産業に多大な影響を与えられる物資を持つ国は、その輸出を止めることで、他国に大きな損害を与えることができる。もう一つが「市場の不可欠性」である。具体的にはアメリカのような巨大な市場は多くの国にとって死活的に重要な市場であり、アメリカに輸出できないければ経済が成り立たない国もある。ゆえにトランプ政権が関税をかけることで、何とか関税を下げてもらうために交渉し、アメリカの求めに応じて投資などを約束することになる。

このように、現代の世界を地政学・地経学というレンズを通してみることで、世界で何が起きているのか、今後どうなっていくのかを理解するヒントが得られる。地政学的、地経学的パワーを持つ国は、そのパワーを用いて自らが求める国際秩序を作ろうとするが、各国の抵抗や対抗措置によって、思い通りに国際秩序を操れるわけではない。国際社会は、ルールに基づく秩序から、パワーに基づく秩序に移りつつあるが、新たな秩序がどのような形に収まるのかは、まだ流動的である。そんな中で、日本は自らの戦略的自律性と不可欠性を高めながら、地政学的なパワーゲームに巻き込まれないよう、ルールに基づく秩序を守り続け、パワーに基づく秩序とは異

なる、代替となる世界を用意しておくことが必要であらう。

D. 考察

以上の分析から、現代の国際秩序は地政学・地経済的なパワーによって左右され、それ故、G7・G20のような大国間協調の枠組みを維持することは難しく、その枠組みを通じた国際保健課題に対する取り組みを進めることは難しい。ゆえに、日本はルールに基づく国際秩序を主張する、ミドルパワーによる連合において主導的な役割を果たし、パワーに基づく秩序とは異なる世界を用意しておくことが重要となる。

E. 結論

これまでアメリカが抱えてきた課題を肩代わりしつつ、国際秩序の維持者を主張する中国も巻き込んで、国際公共財の提供を推進し、アメリカが国際公共財の提供を拒んだとしても、国際保健の枠組みが「自律的」に機能するよう貢献すべきである。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Kazuto Suzuki "De la seguridad económica a la geoconomía: nuevas formas de medir el poder", ANUARIO INTERNACIONAL CIDOB 2026, 2025, pp. 41-49

鈴木一人『地経学とは何かー経済が武器化する時代の戦略思考ー』新潮社、2025年9月、288頁

2. 学会発表

鈴木一人「欧州から見た米国国家安全保障・防衛戦略」日本安全保障貿易学会第41回研究大会、2026年3月15日

鈴木一人「相互依存の罠と経済の武器化：国際政治経済学からの視点」2026 年国際経済法学会関西西部会、2026 年 3 月 14 日

鈴木一人「経済安全保障を安全保障として論じることとは可能なのか」日本国際政治学会2025年度研究大会、2025年10月19日

Kazuto Suzuki, "Geopolitical Risks in the Middle East under Trump Administration". 第48回中東協力現地会議、2025年8月4日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし